

平成30年度

第7回

亀山市立図書館整備推進委員会会議録

平成30年度 第7回亀山市立図書館整備推進委員会会議録

日時	平成30年11月8日（木）午後3時30分開会
場所	亀山市総合保健福祉センターあいあい2階研修室
出席者	服部教育長、横山委員長、中井副委員長、川口委員、若菜委員、鈴木委員、片岡委員、桑名委員、川辺委員、栗本委員、大澤委員、佐久間委員、井分委員、亀渕委員、草川委員
欠席者	豊田委員、山本委員、嶋村委員
事務局	亀山市教育委員会生涯学習課 亀山参事、小坂、駒田 亀山市立図書館 井上館長、服部

■開会

【事務局】 傍聴者（1名）の承認後、第7回亀山市立図書館整備推進委員会を開催する。配布済の資料を確認する。欠席者の連絡をする。

1. あいさつ

【教育長】 みなさん、こんにちは。
お忙しい中ありがとうございます。
今回の委員会では、基本設計の最終の提案の場になると考えております。次回の会議は、年が明けてからの開催を想定しております。基本計画では、亀山の図書館のあり方や目指す姿が掲げられています。もし、これを外したら亀山市の図書館じゃなくなるということがあれば是非とも、ご意見をいただけたらと思います。今日の意見を踏まえて、教育委員会にも提案させていただきます。さらには、市長はじめ、庁議や議会にもかけていく流れが待っております。今日ですべてが確定するわけではございませんので、ご承知いただけたらと思います。
委員の皆さまから、貴重なご意見をいただけたらと思っています。

【横山委員長】

前回の会議では、台風の関係で出席できずに申し訳ございませんでした。本日の会議では、図書館の設計図を資料で説明いただけるということですが、細部に渡りご意見をいただくのは難しいと思っています。図書館に対して、機能的な面でご意見をいただけたらと思っています。資料として図書館の設計図を配布できないことを伺っていますので、亀山課長から説明していただけたらと思います。

2) 協議事項 亀山市立図書館基本設計（案）について

【横山委員長】

会議録の確認

事前に配布されました第6回の委員会の会議録について、修正等ありますでしょうか？ よろしければ市HPで公開することについてもご了解いただきたいと思いますがいかがでしょうか？

問題、コメントないため、事務局は市HPを公開する手続きをしてください。

【事務局】

生涯学習課長から概要説明

亀山課長

前回、「亀山市立図書館ゾーニングの方向性」についてご意見をいただきました。本日はこれまでの図書館市民ワークショップやこの委員会での意見、さらに事務局での議論を踏まえて進めてまいりました基本設計の案につきましてご説明を申し上げたく存じます。先ほど委員長からもお話がありましたとおり、はじめに、大変申し訳ございませんが、本日お示しする案につきましては、再開発組合準備会のご了解を得る前の案の段階のものでございますので、事前に配布させていただきました、基本計画について、設計コンセプト、施設構成の考え方以外の外部意匠や平面図、立面図、イメージパース、備品配置イメージにつきましては今後の調整などによる流動性がありますことから、パワーポイントにて説明させていただくことをご了解いただき、

また、今日お示した案につきましても委員皆さまのもとでお留めいただきたくお願い申し上げます。

それではお配りした、基本計画について、設計コンセプト、施設構成の考え方についてご説明申し上げます。前回も含めこれまでにご説明した部分もありますが、これまでのご意見が反映されているかといった視点合わせて再確認いただきたく存じます。

まず、基本計画については、本年5月に策定いたしました整備基本計画の要点を整理したものでございます。これに基づいて設計を進めていることをご確認いただくための資料となります。こ

の内容については先述のとおり整備基本計画の要点となりますことから、省略させていただきます。めくっていただきまして、裏面の設計コンセプトにつきましては、整備基本計画を軸に設計事務所から提案されたものとなります。

本を中心にヒト・モノ・コトが集う「かめやま 本のターミナル」の意図するものは、新図書館の基本理念である「学びの場からつながる場へ」を念頭に置いたものとなっております。ターミナルとは鉄道の駅もイメージさせることも含まれています。

なお、このコンセプト案につきましては、図書館館内会議においても、本を中心にヒトが集い交わる「かめやま 本のターミナル」ではどうかといった意見も出ておりましたので、本委員会においてもご意見を賜りたく存じます。

また、コンセプトを構成する柱として、多機能型、多世代交流、居場所、もてなしを挙げております。これらについてもご意見を賜りたく存じます。

次に、施設構成の考え方についてですが、まず、現時点での考え方として各階 1,000 m²の3階建てを基本として、その一部を4階とする構成が示されております。

ここでは、整備基本計画に示された新図書館の蔵書数24万冊、うち開架分16万冊、さらにそのうちの公開書庫分3万冊、閉架書庫分8万冊を前提として、必要面積の目安を算出しております。これにより、24万冊を担保するためには1,500~1,670 m²は必要であろうとの数字が示されております。

次に、各階層の構成決定の基本として、動から静の空間創出と開架エリアにさまざまな附帯機能を接続するものとしております。これに基づいた各階のコンセプトはお示しのとおりです。

ゾーニングにつきましては、詳細案はこの後パワーポイントでご説明申し上げますが、建物の北側の管理を中心とした空間、南側を開架のエリアとする統一的な配置とするとともに、立体構造を一体的に利用できるような配慮がなされております。

めくっていただきまして、平面計画では、各階及び管理運営における施設面での配慮点をお示ししております。特に2階の児童・親子機能では子どもの安全性の確保とともに、若い世代、ティーン世代が上下階の多様な図書や活動に接する機会創出、いわゆる「大人への背伸び」を含めた居場所空間への配慮が示されております。管理運営の考え方としましては、極力縦導線を繋げていくことと3階、2階の部分にカウンター、事務室を設けて図書館全体の状況を把握すること、1階の部分については多数の来訪者が訪れるためメインのカウンターと1階の総合カウンターを分け

ることとしました。ご意見を賜りたいと思います。

【横山委員長】

ありがとうございました。設計コンセプトとして本のターミナルというのは、洒落たものになっているなぁと思いました。何かご意見などありましたらお願いいたします。

【川辺委員】

このコンセプトは初めてですがモノ・コトという議論はしてこなかったと思います。今日の会議の中で、いきなり出てくるのはおかしいと思います。また、カウンターや総合案内の方は、図書館の職員の方を想定していますか？

【事務局】
亀山課長

まず、コンセプトの部分ですが、確かにモノ・コトについては設計会社から示されたもので唐突感があると考えております。カウンターの件につきましては、1階の総合カウンターについては図書館全体のアナウンス部分については図書館職員で対応できないと考えています。横の事務所のカウンターにつきましても図書館職員が担当することと想定しています。

【中井副委員長】

設計のコンセプトですが、「ターミナル」ということで終着駅というイメージがあります。何か発信という意味を含めて、始発駅の方がいいのではないかと思います。駅という発想から、何か絡める発想は面白いものだと感じました。

【横山委員長】

コンセプトや愛称とかも面白いものになればと思います。議論は尽きないと思いますので今後、事務局の方で検討していただけたらと思います。

【事務局】
亀山課長

それでは、次にゾーニングの詳細についてパワーポイントによりご説明申し上げます。これは前回の委員会での意見、10月8日開催の図書館市民ワークショップでの意見も踏まえて前回お示しのものから再調整を行ったものです。

まず、1階ですが、まず中央に階段を設けてこれを吹き抜けと兼用させることで、解放感と、先ほどご説明申し上げましたように立体構造を一体的に利用できる配慮がなされております。エントランスの正面には郷土資料コーナーを設け、名誉市民の中村晋也氏や衣笠貞之助、志賀直哉、江戸川乱歩、服部四郎などゆかりの文化人の功績を紹介します。

2階については、児童・親子のスペースを軸にティーンズコーナーと一般開架を並列的に配置します。これにAVブース・個人

向けの学習ブースなども配置する考え方です。

3階は、開架書庫を中心としゆっくりと本を読める空間を創出し、またこれにグループ学習室を配置し音を遮断できるように工夫しています。また閉架書庫を付加するように示されております。

4階は、できるだけ多くの本を集め、冊数をたくさん入れることができるよう図書を周密させて配架する公開書庫と閲覧席を配置するものです。吹き抜け空間があり空間活用し3階とセット関係になるよう配置しています。ここまでの説明が1階～4階の配置となります。前回と大きく変わりましたのが階段の位置が大きく変わった。3階に予約本のスペースも配置したのが変更点です。

駐車場については地下に配置し50台分用意しました。地下の駐車場につきましては図書館だけでなく、北側に広がっているマンションの建物の下の部分も一部、駐車場としてスペースを取ることも検討しています。

(立面図・断面図の説明、東西南北からのイメージ、各界のイメージ図、形の説明を行う)

次に外観のイメージですが、水平のラインをベースにし、ラインを強調した建屋と駅側の面を硝子張りとするデザインの案が出されております。これは、館内が見通せることで常に本と人の動きを外部に見せることで、駅前のにぎわいと一体感を図るものです。2階と3階部分の窓のようなもの、外壁の開口部は列車の窓からの風景をイメージさせるもので鉄道の町に相應しいデザイン要素としています。庇があるのとなないものとのデザインもあります。

次が各階の内部のイメージパースです。未完成の部分が多くあります。次に先ほどお示した平面案で、備品類を配置した場合のイメージ案です。より具体的なイメージをご確認していただくために、他市町の図書館での事例を合わせてお示ししています。あくまでもこのような配置も考えることができるというレベルのものでイメージとしてご覧いただきたく存じます。

例えば1階のブラウジングコーナーに円形、丸く配置、書架を配することで、館外からの視線でさまざまな雑誌などが置かれているワクワク感を出すことができます。このような配置で、21350冊の図書と155席の閲覧席を確保することが可能です。

2階は子どもの動きを意識した配置とし、プレイコーナーにはちょっとした隠れ場感を持つ遊具などを配することができます。児童書は23000冊程度配架することが可能です。

3階は、南側からの日照による図書の焼けを意識して極力南北方向の配架が多くなるように配慮しています。子どもたちが落ち

着いて、かつ居心地のいい空間を作る仕掛けは必要だと考えます。この階で75000冊、席数60席程度の確保が可能です。閉架書庫については自動システム提案としていただいております。なにぶん金額が高価なため慎重な議論が必要かと思っております。また館内に携帯電話が使えるスペースも必要の意見もありますので設ける予定です。コーナー、通路付近に設ければいいかと思っております。

4階は公開書庫で本棚を高くして書架の間を狭めて将来24000冊、20席程度の閲覧席の確保ができます。

ここまでの各階の床面積の合計で、約3,000㎡となります。この基本設計案を起点として建設事業費の概算を行ってまいりたいと考えております。

ただし、現段階では機械室や電気室のスペースが確保されておりませんので、お示した案の全体で200㎡程度分を組み込むために、1階から4階までのそれぞれの階で少しずつ削減するなどして最終的に全体の中に収まるように調整が必要になるかと考えております。この検討にあたっては最終的な蔵書冊数の24万冊、駐車場台数の90台程度に影響を与えないように検討を行っていくものと考えております。これと並行して全体の事業費も調整して、双方を合わせて基本設計の最終案として今月中に完成していただく予定です。

今後この作業を進めていくに当たっては、事業者や設計者、財政面、景観など細部にわたっての調整となりますので、最終的な市側の意見調整につきましては、行政内部で立ち上げております駅周辺拠点整備プロジェクトチームを軸に進めてまいりたく、その旨ご了解をいただきたくお願い申し上げます。

以上、基本計画案についてのご提案とさせていただきます。

【横山委員長】

委員の皆さま全員からご意見をいただきたいと思っておりますので、順にお願いいたします。

【若菜委員】

鉄道の町を絡めたコンセプトとしてはわかりました。人を引き付けるものとして何か工夫をして欲しい。また、もっと大人向けのものも置いていただけたらと思います。今後、検討をお願いいたします。

【鈴木委員】

バリアフリーの視点で、エレベーターがあるのはいいのですが、階段をスロープ的なものにするべきだと思う。また4階建てのため場所の問題として、テレビ等での電波障害の例もあり、電波障害が出ないか心配しています。歴史的な背景があって、「鉄道の町」をコンセプトにするのは良いと思うが、昔の亀山を知らない人が

理解するのは難しく思います。他市などでは、SLの車輪など歴史的なものも置いています。そういうことも踏まえて、駅前という考えに繋がってくるのだと思います。

【片岡委員】

子どもが利用するということで、2階について安全を第一に考えて検討してください。また、視聴覚機器をどこに置くのかを検討するということでしたが、子どもが動き回るため子どもの場所にはできるだけAV機器を少なくして欲しいと思います。

【川口委員】

スタッフの部屋、トイレの場所がさっぱりわからない。いろいろ配慮することはあると思うが図面でいただき、後で回収することができなかったのか？写真も大きくないしわからないし、紙ベースで確認し、後で回収するという形式にして欲しかった。残念である。キャレル席にはこれから必ずコンセントが必要となる。WiFiも賛否両論と言っている場合じゃなく、飛ばさないといけないと思うし、スタッフ側にもエレベーターが必要だと思いました。荷物を運ぶリフトだけでは不便である。本の上げ下げの作業もあるので今後必ず必要となります。

【栗本委員】

先ほどの説明の中で、自転車スペースがありませんでした。亀山の人は車の移動が多いとは思いますが、自転車で来られる方もいると思いますので、検討をお願いします。ボランティアが使うスペースや多目的室はどこにありましたか？

(パワーポイントにて図面、場所確認)

【栗本委員】

わかりました。ありがとうございます。また、駅前側と西側に閲覧席を設けていますが、夏の日差し、西日を遮れるようにしてください。

【事務局】
亀山課長

そうですね。多目的室をボランティアが使うスペースと共有することを検討しています。

【川辺委員】

資料を事前に送って欲しかった。この段階なら4年後に実際に図書館を使っていくスタッフが議論に参加できているのだろうか？管理運営スペースにスタッフが何人いるのだろうか？そういう人たちと議論されているのか、その方たちが導線を考えているのか、気になりました。

【桑名委員】

地域の人たちから「エントランスの部分が狭いのではないか」などの意見がありました。地権者から出ていた意見が再開発にあたって影響が小さくなっているように感じています。今後、地域の方々が納得されるのかという不安があります。

ターミナルという言葉がありました。昔から亀山市では、関西や関東に行くのが中心ということで終着駅というという意味ではなくて、結節地点という意味合いでした。どんな言葉が出てくるかはわかりませんが、亀山の地域の方が関西や伊勢方向に乗り継いでいく中心地としてのイメージできるものだといいと感じました。

駅前の再開発にかなり不安なところがあります。中村先生の作品展示もいいのですが、地元の美術作家の人の作品も飾ることを検討して欲しい。例えば、亀山市出身で日展表彰者の作品を飾れたらと思います。

駅前の再開発については、「私たちの意見がどうなった？」ということを感じている人もいますので、改めて調整して欲しいと思います。

【横山委員】

行政側の委員からも意見をいただきたいと思います。

【佐久間委員】

建物の外観から鉄道の町という表現でしたが、鉄道ということが感じられず、センスがいいとは思いませんでした。モノで表した方がいいのではないかと思います。今後、自動閉架書庫の面積が限られているので、金額がいくらになっていくのだろうかなど不安に思いました。

【井分委員】

まず、使う人の立場を重視して、図書館を使う人の視点を考えて欲しい。福祉の立場から高齢者であったり、障害者であったりそれぞれの立場の考えを持ち合わせる図書館であって欲しいと考えます。次に今回、示された資料からは亀山市のオリジナル部分でどこに手厚いのか、具体的なものが読み取れませんでした。駅からの玄関口なので、外からの人、通る人に対するインパクトが欠けているのだと思います。駐車場の地下ですが、地震のことを考慮すると1箇所出口で大丈夫なのかなと思いました。そういった視点も必要だと思いました。

【草川委員】

これまでいろいろ意見を頂いた中で図書館の計画の中で教育委員会としては蔵書の24万冊、面積3,000㎡をもとにここまで進めさせていただいております。事業費の話もありますが、蔵書数

については確保していく方向で進めていけたらと思っています。

【亀淵委員】

駅前の再開発も兼ねているので、3,000 m²の中で24万冊は多少無理があり、難しいと考えています。冊数を落としてでも、システムなども活用しながらより利便性の高いものへ対処していくことが大切だと思います。現在必要なものは行い、確保し、後でも行えることは後でも手当する必要はあるのではないかと考える。

【大澤委員】

スタッフの問題については、基本計画だけではなく、実施設計の中でも調整を検討していく内容だと思います。事業費の関係も考慮して、3000 m² 24万冊の中で議論し、これからまだまだ調整すべきことはあると思っています。財源的なことも含めて、駅前再開発の準備審議会との協議もしていきます。現時点できる範囲で話をさせていただいている内容であるのご理解ください。

【中井副委員長】

皆さんがおっしゃっていたことを事務局で考えていただきたく思います。大きな問題として24万冊の蔵書数を16万冊の開架図書数というのを優先するあまり、本棚、書架を置くことが優先されていると思います。そのあとに閲覧席が計画されている感じがします。問題点として、書架の間から座席が見えないと閲覧席に座っていただけないデータがあったりします。そういったことも考えて行く必要があります。また、書架の連数の7連は高さ的にも長さ的にもよくないと思います。特に、子ども用は5連以下にした方がいい。車いすの人がとれる範囲についても考えて書架の配置にメリハリを付ける必要があると思います。例えば、小説など誰でも親しむ場所は低くする、専門書の場所は高くするようにします。児童コーナーに近い若者エリアは小学校の高学年が使うようにあるため高校生が使わなくなる。若者エリアと児童コーナーはより離していただけたらいいのではないかと思います。これらを含めて、ゾーニングについてさらに考えて欲しいと思います。

レファレンスカウンターは、専門書などから近い場所に置くものだと思います。もし、郷土資料を置いていくのであれば、レファレンスがしやすい位置じゃないと難しいと思います。2階、3階にするのかは、これは大事な話で、それに応じて職員の配置にも繋がっていきます。もうちょっと、レファレンスについて配慮してください。日差しや西日については別途工夫してください。

【教育長】

事務局として説明させていただいたことが、ワークショップなどで示されたマックスな状態だと思います。このため、全体的に詰め込んでいる感があります。したがって、委員の皆様からの意見をできるだけ尊重していきたいと思います。

まず、24万冊にこだわらず、ゆとりある空間を創り出すこと、レファレンスコーナーを2階から別の階へ。次に書架の連数や高さにメリハリをつけること。そして亀山市として特色を持たすことや3000㎡の中に機械類が収まるようにスリム化をしていく。さらにレファレンスをどう重視していくのかを精査していかなければいけないと思います。駅前の皆様のご意向をプロジェクトチームとも情報共有して、最終的に満足していただけたらと思います。

【川辺委員】

エントランスの展示コーナーについては、エントランス右側を生かすのが重要だと思います。郷土資料コーナーが入れ替えることができる流動性のあるものにしていくべきだと思います。郷土資料コーナーについては多目的に保存機能や発信もできる場として流動性のあるものにしていくことが重要だと思います。また調べるスペースも欲しいと思います。

【横山委員長】

まだまだ言い足りない事が多いと思いますが、たくさんお話をいただきましたので、今日言えなかったことはまた事務局に伝えてください。

今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

【事務局】
亀山課長

次回の委員会ですが、図書館が入る建物の基本設計を駅前再開発組合準備会で進めていただいております関係から基本設計が確定できた段階での開催又は各委員の方に基本設計を送付させていただきたいと考えております。今後も駅前再開発組合準備会と連携し調整していきます。

本日は貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。これを持ちまして第7回図書館整備推進委員会を終了させていただきます。